

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成 28 年度）

－ 研究課題 2 中学校 －

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくほこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校				ふりがな 校長氏名	かね みつ ひで お 雄
所在地	〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48番6号 電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769 E-mail gunji.naotaka@h.hokkyodai.ac.jp					
(H28.4.1見込)	1年	2年	3年	計	(H28.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	3	3	9	教員数 18名	
生徒数	109	106	106	321	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 3名	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	社会	教科課題番号等	2
学校における研究主題	問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫・改善 ～「単元を貫く学習課題」の設定に基づいた指導方法等の工夫・改善～		

3 平成 27 年度の成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> ○「単元を貫く学習課題」を追究する学習活動によって、知識・技能の活用とともに、社会的事象に対する多面的・多角的な見方や考え方にに基づいた記述ができるようになった。 ○複数の単元における「単元を貫く学習課題」の継続によって、社会的事象の多面性や立場による見方や考え方の違いを踏まえて、新たな問題を最初から多面的・多角的に捉えられるようになった。 ○「単元を貫く学習課題」に対する単元前の学習者のワークシートへの記述を、診断的評価の手段として機能させることができた。また、単元を構成する1単位時間ごとの授業末における学習者のワークシートへの記述を、形成的評価の手段として機能させることができた。 ●学習者の内面に生じる疑問や問題意識に基づいた「単元を貫く学習課題」とする方法の検討や、「単元を貫く学習課題」をさらに貫く視点の具体に関する検討が必要である。 ●単元構成表を単元・授業構築に資する資料とするために、小学校及び他分野との関連を視覚的に把握しやすい図式化したものへと改善するとともに、「問題解決的な学習のために習得すべき知識・技能等」は、それらを活用する時期と内容を明確にした上で、より精選を図っていく必要がある。 ●総括的評価について、複数の社会科教諭による評価方法とともに、より簡便で汎用性の高い方法や定期テストでの問題解決能力を測る設問についても検討する必要がある。

4 平成 28 年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

<ul style="list-style-type: none"> ・「単元を貫く学習課題」を貫く視点を設定するとともに、学習者の問題意識に基づいて意欲的に追究し続けることのできる課題設定のあり方について検討を行う。 ・小学校及び他分野との関連図を加えた単元構成表を作成するとともに、「問題解決的な学習のために習得すべき知識・技能等」を活用する時期と内容の精選を図る。 ・評価のあり方に関して、生徒にワークシートに基づいた複数の社会科教諭の評価の継続とともに、定期テストにおける問題解決能力を測る設問の検討を行う。

(2) 研究計画

実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
4月～10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元を貫く学習課題」の再設定及び「単元を貫く学習課題」を貫く視点の検討 ・単元構成表の作成（特に小学校及び他分野との関連図及び「問題解決的な学習のために習得すべき知識・技能等」の精選） ・「単元を貫く学習課題」及び単元構成表に基づく授業実践及び研究成果の検証 	<p>研究1年次の課題を踏まえた「単元を貫く学習課題」及び単元構成表の検討・作成によって、研究1年次の課題を克服するための方策が明らかになる。</p> <p>また授業実践によって、設定した「単元を貫く学習課題」や単元構成表に関する有効性・有益性が明らかになる。</p>
7月・11月	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力の育成を見取るテスト問題の作成・実施 	<p>問題解決能力を見取るに資する設問及び解答方法等が明らかとなり、実践・研究の評価を行うことができる。</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究大会の実施 	<p>授業公開及び研究発表を行い、全国の公立小中学校や他附属との交流を通して、本研究の成果と課題が明らかになる。</p>
11月～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「単元を貫く学習課題」及び単元構成表に基づく授業実践及び研究成果の検証 	<p>当初の指導計画・指導内容に改善を加えつつ研究を継続する。</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習を中核とする単元構成の工夫改善に関する研究のまとめ 	<p>研究の成果と課題が明らかになる。</p>

5 研究のまとめの見通し

<p><期待される成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題解決的な学習を中核とする単元構成の実践例として、具体的に追試が可能になる「単元を貫く学習課題」及びその単元構成表を整理することができる。 ○学習者の問題意識に基づいて意欲的に追究できる「単元を貫く学習課題」設定のための具体的な方策や、「単元を貫く学習課題」を貫く視点の具体的な実践例を示すことができる。 ○問題解決的な学習によって学習者に育む資質や能力の評価方法や、定期テストにおける問題解決能力を測る設問の具体例を示すことができる。 <p><研究成果の検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「単元を貫く学習課題」が学習者の問題意識に基づいて意欲的に追究できるものであったかについては、ワークシートへの記述状況や学習者への質問紙調査等を用いる。 ○評価方法や定期テストにおける問題解決能力を測る設問については、本校研究部及び社会科に加え、大学や関係機関等との協議・検討を行う。 <p><研究成果等の普及></p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究の成果にかかわる「単元を貫く学習課題」や単元構成表の具体例などの実践事例、評価関係資料などの成果について、本校ホームページで広く公開する。 ・北海道教育大学が平成23年度から取り組んでいる「学力向上プロジェクト」と連動し、その成果の普及を図る。
--